

重要課題（マテリアリティ）

KV25 マテリアリティ

日本化薬グループは、ありたい姿「KAYAKU spiritのもと、存在感をもって、永続的に環境、社会、すべてのステークホルダーに幸せやうれしさを提供できる会社であること」の実現に向けて、現状とのギャップを分析し、優先して取り組むべき5つの課題（新事業・新製品創出、気候変動対応、DX、仕事改革、働き方改革）を全社重要課題としました。

また、サステナブル経営の推進にあたり、社内外の視点から当社グループが抱える重要課題を適切に把握し、これをサステナビリティ重要課題と定め、事業活動と連動したサステナビリティ・アクションプランを策定しました。

KV25ではサステナブル経営基本方針のもと持続可能な環境・社会の実現に貢献するため、全社重要課題を最優先で取り組み、それを補完するかたちでサステナビリティ重要課題に取り組みます。全社重要課題とサステナビリティ重要課題を合わせた総称を「KV25 マテリアリティ」としています。



※ 各サステナビリティ重要課題の前についている■は、全社重要課題の取り組みがサステナビリティ重要課題の取り組みにもつながることを示しています。

全社重要課題の取り組み

日本化薬グループは「ありたい姿」の実現に向けて、目標と現状とのギャップを分析し、組織横断の全社プロジェクトで優先して取り組むべき5つの課題（新事業・新製品創出、気候変動対応、DX、仕事改革、働き方改革）を全社重要課題として定めました。全社重要課題の取り組みの浸透や各課題解決のスピードアップを図るため、複数の部門から選出されたメンバーによって構成されるM-CFT（マテリアリティ・クロスファンクショナルチーム）で取り組んでいます。

全社重要課題	取り組み内容
新事業・新製品創出	「モビリティ」「環境エネルギー」「エレクトロニクス」「ライフサイエンス」の4分野において、3事業領域と連携し既存組織の壁を越えて、新事業・新製品を創出し、ありたい姿の実現に貢献します。
気候変動対応	温室効果ガス排出量の削減等の地球温暖化防止やカーボンニュートラルの取り組み目標を設定し、各工場・研究所と一体となって気候変動リスク対策に取り組みます。
DX	全社的にDXを推進し、プロセスの変革で売上の拡大、コストダウンで事業の拡大を図ることが当面の目標です。具体的には、①IT教育や意識改革、②ERPやITインフラ再構築等のIT基盤強化、③研究開発、生産、営業・マーケティング、管理の各業務プロセスにおけるDXに取り組んでいます。
仕事改革	グループ経営・事業運営（マネジメント）管理方法や原価管理方法の見直し、あらゆるムダを省く業務改善・原価低減を目的としたA3活動（KAIZEN）※を通じた仕事の効率化や生産性の向上により、資産効率と稼ぐ力の向上に取り組んでいます。
働き方改革	「生き活きた強い会社・いい会社」を目指し、従業員一人ひとりが活力をもって仕事し、従業員のエンゲージメントが高まるよう働き方改革と人事制度改革に取り組んでいます。

※ A3活動（KAIZEN）・・・「原価低減意識」を基本とした、日本化薬グループを「生き活きた会社」にするための個人と組織の強さ（スキル・専門性）や自律性を養う意識改革活動

サステナビリティ・アクションプラン

日本化薬グループのサステナビリティ・アクションプランでは、SDG Compassを活用し、各重要課題とSDGs17目標を紐付けています。当社グループは毎年KPIの進捗状況を管理・開示しサステナビリティ活動を推進することで、環境・社会的価値と経済的価値を創造し、SDGsの達成（持続可能な社会の実現）と企業価値向上を目指します。

	サステナビリティ重要課題	目指すSDGs	アクションプラン	重要指標 (KPI)	2025年度到達目標	2022年度結果	2022年度取り組みに関するトピックス
企業存続に関わる最重要課題	コンプライアンスの徹底	16	<ul style="list-style-type: none"> 企業活動を行う上での基本原則であるコンプライアンスを徹底し、公正な事業運営を遂行する 高い倫理観をもつ風通しの良い企業風土を維持・強化する 	重大コンプライアンス違反件数※1	0件	0件	<ul style="list-style-type: none"> 重大コンプライアンス違反なし コンプライアンス研修は「職場の心理的安全性」をテーマとして、すべての国内グループ会社で研修を実施 すべてのグループ会社へ社内窓口、社外窓口、規程制定の有無を確認した結果、海外グループ会社3社で通報窓口設置がないことを把握
	コーポレートガバナンスの強化		<ul style="list-style-type: none"> グループ全体のコーポレートガバナンスを強化し、透明性が高く健全な経営を行う 	取締役会の実効性評価実施回数	1回/年	1回	
最重要課題	品質と顧客の安全	16	<ul style="list-style-type: none"> 品質マネジメントシステムの継続的な改善と、品質ガバナンスを徹底することにより、品質管理・品質保証体制をより強化する 品質経営を推進し、デジタル化による生産効率の向上と工程異常の低減を図る 	重大顧客苦情件数※2	0件	1件	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中央品質診断、品質教育・研修、品質改善活動等はウェブ会議システム等を利用しての活動が中心となっていたが、実地での活動を再開 品質保証、品質向上のための教育活動として、KV25スタートに合わせて品質マダラートを作成し、これに沿った各種品質教育を計画的に実施
	サプライチェーンにおける環境・社会配慮		<ul style="list-style-type: none"> サステナブル調達ガイドラインに基づき、環境面や社会面に配慮したサプライチェーン・マネジメントを実践する 	サステナブル調達ガイドラインに対する同意確認書の回収率	(単)90%以上	(単)99%	

	サステナビリティ重要課題	目指すSDGs	アクションプラン	重要指標 (KPI)	2025年度到達目標	2022年度結果	2022年度取り組みに関するトピックス
最重要課題	エネルギー消費量と温室効果ガス排出量の削減	6, 7, 9, 12, 13	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー・地球温暖化対策活動を推進し、2030年度環境目標を達成する 2050年度カーボンニュートラル達成に向けた課題の抽出と戦略を明確化する 	温室効果ガス排出量 (Scope 1+2)	(2030年度達成目標) 88,324トン以下 (2019年度比32.5%以上削減) (2022年度達成目標) 119,252トン以下	108,107トン	<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス排出量削減の取り組みの一環として、MFCAおよび太陽光発電PPAモデル導入を推進 廃棄物発生量は2021年度と比較し3.3%減少 これまで埋立処理をしていた廃棄物のリサイクル化をさらに推進し、リサイクル率は85.0%、ゼロエミッション率は0.8%に改善 環境問題に配慮した製品・技術の開発状況 【セイフティシステムズ事業】 軽量化シリンダー型インフレータ・グリーンプロプラントMGGの開発 【ボラテクノ事業】 生産工程改善、製品設計改良による廃棄物および排出処理エネルギーの削減を推進 【機能性材料事業】 CFRP用熱硬化樹脂について、展開可能性のある開発品を顧客に紹介 バイオ由来原料を使用した熱硬化樹脂の開発 【色素材料事業】 産業用インクジェット（コート紙用、軟包装用、捺染用）の開発 感熱用ノンフェノール顔色剤の上市および拡販 PLA（生分解性）繊維用染料の開発加速 【触媒事業】 水素製造用触媒の共同研究を推進 厚狭工場の石油燃料ボイラーのLPG化が進行中 マテリアルズ・インフォマティクス技術を活用した原料使用量削減および目的物収量向上に寄与する触媒の開発
	排水および廃棄物の削減		VOC排出量	(単)実績を開示	(単)38.7トン		
	水資源利用の効率化		COD排出量	(単)実績を開示	(単)171.8トン		
			廃棄物発生量	(単)実績を開示	(単)27,621トン		
			リサイクル率	(単)80%以上	(単)85.0%		
			ゼロエミッション率	(単)1%以下	(単)0.8%		
			SBTIに批准した目標設定と具体的施策の検討・実施	進捗状況を開示	CDP（気候変動）でA-評価を獲得 Scope 3算定精度向上を実施		
			TCFD提言に沿った情報開示	進捗状況を開示	情報開示済み		
	環境問題に配慮した製品・技術の開発推進	進捗状況を開示	トピックスに掲載				

	サステナビリティ重要課題	目指すSDGs	アクションプラン	重要指標 (KPI)	2025年度到達目標	2022年度結果	2022年度取り組みに関するトピックス
重要課題	職場の労働安全衛生	 	<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生に関する基本ルールの徹底と、設備や作業手順の改善により、安全操業基盤をより強固にする 健康経営を推進し、従業員が生き生きと働けるワーク・ライフ・バランスのとれた職場環境を提供する 	重大事故災害件数※3 健康経営優良法人（大規模法人部門）認定取得 有給休暇取得率 メンタルヘルス研修受講率 定期健康診断受診率 アンケートを利用した従業員満足度の把握とその向上	0件	0件	<ul style="list-style-type: none"> 事業場内グループ会社および協力企業を含めて日本化薬単体での休業災害発生なし 健康経営優良法人を再取得。継続するよう従業員の健康維持増進活動を推進 有給休暇取得率は目的達成とはならなかったが、これまでと同様に社内イントラネットによる啓蒙、各事業場の人事労務担当者からの積極的な声かけ、有給休暇取得奨励日の設定等を実施 メンタルヘルス研修は3ヶ年計画の3年目終了 定期健康診断受診率は100%を継続 エンゲージメントサーベイ、健康経営度調査実施会社へのヒアリング調査に着手。次年度に本格導入予定
	雇用の維持・拡大と人材育成、人権尊重	 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材の採用と効果的な人材配置および交流により、ダイバーシティ&インクルージョンを推進する 継続的な人材育成により、ものづくり技術力の継承・強化と人材のグローバル化を図る 従業員をはじめサプライチェーンに関わるあらゆる人々の人権に配慮した事業運営を行う 	女性管理職比率※4 障がい者雇用率 従業員一人当たり教育研修投資額 従業員一人当たり教育研修時間 人権に関する研修回数 人権デュー・ディリジェンス「人権への影響評価」実施率	(単)10%以上	(単)9.0%	<ul style="list-style-type: none"> 人事労務担当者向けに、女性管理職による自身のキャリア形成に関する講演会を実施。女性産業界による女性に特化した健康増進に関する講演会を実施。女性従業員向け研修の開催を検討 障がい者雇用の取り組みとして特別支援学校との連携（協働）を継続。職域の拡大、障がい者雇用の取り組みが先行している企業への見学と意見交換会による情報収集を実施 「日本化薬グループ人権方針と人権デュー・ディリジェンスの仕組み」についてeラーニング研修を実施 人権リスクの特定・評価に向けて経営層での勉強会を実施。リスクの特定・評価は実施方法を再検討することを決定
	リスクマネジメント		<ul style="list-style-type: none"> 事業に関わるさまざまなリスクに対応し、生産体制の維持、原材料の適正確保、災害対策の強化により事業継続性を確保する 	事業等のリスクコントロール活動・TOP5リスクコントロール活動実施率 BCP訓練実施回数	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> 日本化薬単体の各工場、すべてのグループ会社でTOP5リスクコントロール活動を実施（トレンドとしては地政学的なリスクの高まりから、原材料価格の高騰、原材料の供給途絶等のリスクが増加） 国内2工場と海外4グループ会社においてTOP5リスクで重要と思われる点についてヒアリングを実施 国内では地震発生時のBCP訓練として、導入した緊急時通信システムを2021年度に引き続き利用して実施 中国グループ会社で現地コンサル指導の下、BCP訓練を実施

※1 倫理委員会にて重大と判断した案件数
 ※2 損失額1,000万円以上
 ※3 3人以上の同時休業災害または死亡災害
 ※4 2024年度末の目標値

サステナビリティ重要課題のリスクと機会

日本化薬グループは、特定したサステナビリティ重要課題のリスクと機会を認識した上で、リスクを低減し、新たな事業成長につながる機会を取り込むことで、持続可能な社会の実現とさらなる企業価値の向上を目指します。

	サステナビリティ重要課題	リスク	機会
重要課題	企業存続に関わる最重要課題	コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス違反による社会的信用の失墜 企業価値の毀損 事業活動の低迷
	コーポレートガバナンスの強化	事業活動の停滞	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーからの信頼獲得 社会的信用力の向上
最重要課題	品質と顧客の安全	<ul style="list-style-type: none"> 品質不適合の発生による顧客の離反 品質管理、表示等の法令違反による社会的信用の失墜 	高品質の製品供給による顧客の信頼獲得
	サプライチェーンにおける環境・社会配慮	お取引先の違法行為・コンプライアンス違反による企業活動への悪影響	<ul style="list-style-type: none"> サステナブルな社会の実現への貢献 長期的な競争力の向上
	エネルギー消費量と温室効果ガス排出量の削減	【移行リスク】 ・排出規制強化の影響による操業コスト増大 ・電力およびLPG等の価格上昇 ・排出規制強化の影響による原料価格上昇 ・環境情報開示およびLCA算定等のコスト増加	<ul style="list-style-type: none"> スマートシティ化やDXの伸張により、半導体関連素材、低消費電力に寄与する材料素材が拡大 次世代蓄電池向け材料が拡大 モビリティの軽量化に寄与する樹脂素材が拡大
	排水および廃棄物の削減 水資源利用の効率化	【物理リスク】 ・台風、大雨、高潮等による洪水被害によるコスト増加 ・水不足による操業への影響 ・気温上昇による労働生産性の低下	<ul style="list-style-type: none"> EVの軽量化のための光学材料や自動運転化のためのセンサー材料も伸張 気温の上昇が見込まれ、農業の生産性の維持向上に寄与するバイオスティミュラントや、新たに問題化する害虫への既存農薬の適用拡大
重要課題	職場の労働安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> 事故・不祥事の発生による社会的信用の失墜 労働生産性の低下や人材の流出 	<ul style="list-style-type: none"> 安全文化の醸成 従業員のワークエンゲージメントの向上
	雇用の維持・拡大と人材育成、人権尊重	<ul style="list-style-type: none"> 人材の属性やスキルの偏りによる発想の画一化と新たな事業機会の喪失 人権侵害による社会的信用の失墜 	<ul style="list-style-type: none"> 価値観の多様化による新たなアイデアを生み出す企業風土の醸成 サステナブルな社会の実現への貢献と長期的な競争力の向上
	リスクマネジメント	経営に関わるリスクの増加	非常時の事業継続性の確保